



縁起部類

貳

曾
600
156



門不曾
號 600
卷 156



龜戸東宰府

天満宮

御神寶目錄



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '御神寶', '天満宮', and '龜戸東宰府']

御神寶目錄

天滿宮

高辻大納言菅原豊長卿之真筆

御神寶目錄

高辻大納言菅原豊長卿之真筆

大満宮御縁記

此三卷ハ菅原相御誕生在りしより 天満宮と云はせり

御一代の御縁記あり

細字法華經

此一卷ハ 天満宮の御真筆あり

法華經切

此一幅ハ 天満宮の御真筆あり

後水尾院御六歳之震筆

天満宮御神號

一幅



三卷

一部

二枚



此一幅の當社用基別當信祐法印天和二年八月參内の前朱宮御所

よみく天満宮の御縁起と悦ぶ帝御歡感在りくは神号と

都府樓瓦御硯 長一尺二寸七分幅一寸厚八分

一面

此御硯の片面は松皮菱の小紋上は異典の形あり片面は真筆の持あり

都府樓繞看瓦色

觀音寺只聞鐘聲

正親町帝震筆

天満宮御神號

一幅

此一幅は百七代の帝正親町院の震筆なり

筑州天祥山

御爪立石

三

此三ツの石は筑州天祥山の嶺よかりく菅公天の御誓願の御爪立坐の

石のかまきり

後陽成院震筆

天満宮御神號

一幅

此一幅は後陽成院の御震筆なり

木葉化石御硯

一面

此御硯の深山は木葉落まり数千歳を経く化し石と成るを

くく作る御硯なり

天満宮御神號

一幅

此御神號は比叡山延曆寺十三代の座主法性坊尊意僧正御嶽山

妙儀大権現の真筆なり

〇二

松皮御硯 長一尺幅五寸厚一寸余

一面

此御硯天正十一年の頃播州印南郡曾禰崎 天満宮社頭松の落枝
とらつて曾禰崎何野宗守の作る

火中出現御神影

一幅

此一幅狩野時信筆より室永四年亥正月十五日日本所辺大火の所
火中より出現し持主大久保氏奉納せしむる

紅葉之文其臺

一

大岡秀吉公御所持の品連歌師紹巳拜領の後奉納す
水中出現御神影

一幅

此一幅狩野意信筆天明元年丑七月十八日八月廿廿日の祭礼に依て
龜戸川に埋りある檣竿を掘出ると水中より出現ししむる

天満宮御自画

御神影

御神影

此一幅菅承相御在世の時亡跡の御形見共るしと御畫残し
置下りし御神影なり

天國御太刀

天國御太刀の御物の長より大室元辛丑歳大和國宇多郡よらつて奉る
當社の神宝とありし人王五十八代 光孝天皇の御宇仁和二丙午歳
四月十曾 菅承相河内國道明寺より畚田 八幡宮に 夏御泰指申七月
十日の夜社壇の御戸帳をひりて十六歳才の童子一人出来て手は室釵
をひりて示して云他國より天國他人より天國人と枕宣ありき 菅承相
授けり御太刀より妝飾を代り別當の脩造ありき

以上

龜戶舟

萬壽亭藏粹

文政二己卯年閏四月五日龜戶天滿宮刷帳今日
滿尾也因得荊婦及興継參詣於社頭購
得之

洛東高基寺什物記

中初西文
涅槃像
花鳥二幅對
大德不仕
大德不仕
大德不仕

文政二乙卯年四月五日...
 洛東就鳥峯山高臺禪寺什寶畧記
 卷之二

洛東就鳥峯山高臺禪寺什寶畧記

本尊大隨求菩薩 毘沙門天 吉祥天女 御長ケ寺守八分

右園秀吉公法感得の尊像ありて法陣中にありて守り
 まりうひなぐ奇瑞をあらわすなり

水引 えぞみりこ 戸帳 日うせん

三十三身観音 古法光信 八仙人の繪ハ狩野具以
 天神自画尊像 御自ら筆に痛く肉のま痛うてく

涅槃像 顔輝筆 十六羅漢 禪月大師
本朝画史紀うりこり中納言定家公縁紀あり

花鳥二幅對 林良筆 ぶすゆの繪ハ狩野了慶

陣中椅子 時代より古 虎の皮 朝鮮の上履・紫威の御鎧

同の礼 同禮孔 社書法



弄鳴子の御鼓天・御馬印織田信長・御脇息徳川家康

御刀掛・八葉御車の御扉・飾角徳川家康・飾鞍徳川家康

陣中御羽織徳川家康・千躰地藏尊徳川家康・佛舍利徳川家康

開山和尚法衣徳川家康・座帳徳川家康・座壇徳川家康

梵字の香爐・鈴・臺・堆黒御曲糸徳川家康・洒水瓶・香合徳川家康

萩乃屏風・七賢人の屏風徳川家康・竹の屏風徳川家康・堺汐干れ屏風徳川家康

政所殿御膳具一式徳川家康・御角盛御手拭徳川家康・御茶壺徳川家康・御提重徳川家康・御菓子重徳川家康

御茶碗・七寶鉢・瑠璃の鉢

政所殿御書棚徳川家康・初言徳川家康・香爐徳川家康・摸の御枕徳川家康

拱櫛の御團扇徳川家康・御手箱徳川家康・御守袋徳川家康

御手箱徳川家康・御料紙硯徳川家康・御守袋徳川家康

簾下屏風徳川家康・宋之山谷墨蹟徳川家康・文徵明之山水徳川家康・無準和尚徳川家康

西施揚貴妃徳川家康・趙子昂馬繪徳川家康・同墨蹟徳川家康

童子之画徳川家康・近衛應山公御文徳川家康・長嘯子消息徳川家康

始皇圖徳川家康・琴碁書画徳川家康・觀音徳川家康・龍虎徳川家康

三十六歌仙之卷徳川家康・三幅對徳川家康

床徳川家康

秀吉公關白の御裝束 御絶 御衣 御冠

御笏・御料紙硯 秀吉公御自筆御詠歌

秀頼公御自筆短冊・軍中制札の判紙

秀吉公十首御詠歌 自然山水の石屏 并

虎石 右御料大重 秀吉公眼鏡乃御盃 爰より御

政所殿髻年々御服并緋の御袴・浴室乃裙

太閤秀吉公 八傳文治系 豊國御神号 御奉書

三十六歌仙々額 同院号御奉書

政所殿叙位口宣案・同院号御奉書

惣々々々の結々々々

寛政八丙辰年三月三日開扉

御空流淡菊御略縁起
三列御田部針筒
山崎屋守

三列額田郡針崎



柳堂流波彌陀略縁起

寂光山勝鬘寺

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '秀頼公', '御詠歌', and '山水の石']

伏惟流淚の彌陀に奉まゝ親書聖人當時信
懐は善光寺に詣り感得し經ふ尊像たり
故まこつら蓮座ときまへて笈のうらに収め挿
敷の間に志らくも時身以放さふ尊重し經ふ
東國に十余年乃行化儀足しと天徳改元秋
敏洛の歳よりかゝり經ふ三河に矢指色柳堂
薬師寺よりかゝり家乃道場又經ふ一七日の
他力念仏を興法と演めふ小き時老少預参し
て赤岡の法にあつる事以よりよまて小島天台

此續梁三箇寺のり中もと寂光山勝曼寺は世音
とらふに聖徳太子草創の靈場なりと奉るに
孫陀美に太子十六歳を尊像とらふ彫刻し
大般若經六百卷書写し經ふ舍利に秘安置
し經ふ嗣法に立せし經ふ海上人の俗姓鎮守
將軍源賴信の經ふに玄孫權と信平の子なり
櫻殿横川の余流とらふに圓徳一系を妙音と極
とらふ實に一家の絶倫なり聖人乃化導の傳人
なりとらふ終念仏の先年終る停廢せ

ら教の處彼僧何をりるまに幾他自稱
まるや直は向詰して衆惑とこそしや心腹平の
よりのたむ 悦陰ふちよひく柳葉のり 聖人小器
し奉るに 壽憤息よこり 割後悔は候禁し
がぞ 立死に 孝家と捨く 知子とる 聖人小器
まら 金泥九字は 名跡は 苦きと 書与し
致してらに 不謝し 報ふ 報く 報く 報く
に 割水の身久しく ころも けし けし けし けし
心持し 苦しき 苦しき 苦しき 苦しき 苦しき
の 事と 事と 事と 事と 事と 事と 事と 事と
其時 聖人 及た 中より 弥陀の 言儀 あり あり
了海ふ かりて けし けし けし けし けし
よと こそ 感得 せし 先片 時と あり あり
次之 ころ 母 汝可 ころ 母 汝可 ころ 母 汝可
喝仰して 法流と 三川より くる くる くる くる
はえ 立ち せし けし けし けし けし けし
あひ 双眸 ころ 柳 候 流 せ 候 小 器 候
三つ ころ 寺 持 ころ 思 けし けし けし けし けし

其候痕^{あざ}痕^{あざ}の^{あざ}か^{あざ}を^{あざ}残^{あざ}ま^{あざ}り^{あざ}是^{あざ}又^{あざ}不^{あざ}思^{あざ}議^{あざ}の^{あざ}事^{あざ}に
ありし^{あざ}かり^{あざ}よ^{あざ}ま^{あざ}平^{あざ}等^{あざ}の^{あざ}心^{あざ}よ^{あざ}ハ^{あざ}悲^{あざ}喜^{あざ}あり
た^{あざ}り^{あざ}と^{あざ}く^{あざ}と^{あざ}ゆ^{あざ}き^{あざ}悲^{あざ}る^{あざ}風^{あざ}来^{あざ}り^{あざ}と^{あざ}か^{あざ}ハ^{あざ}勤^{あざ}相^{あざ}
あり^{あざ}と^{あざ}高^{あざ}樹^{あざ}の^{あざ}輪^{あざ}鏡^{あざ}實^{あざ}よ^{あざ}由^{あざ}り^{あざ}つ^{あざ}れ^{あざ}是^{あざ}更^{あざ}小^{あざ}
遊^{あざ}作^{あざ}の^{あざ}心^{あざ}愚^{あざ}と^{あざ}れ^{あざ}ま^{あざ}う^{あざ}と^{あざ}易^{あざ}往^{あざ}の^{あざ}勢^{あざ}容^{あざ}よ^{あざ}計^{あざ}
入^{あざ}せ^{あざ}し^{あざ}と^{あざ}い^{あざ}ハ^{あざ}力^{あざ}願^{あざ}要^{あざ}ら^{あざ}ら^{あざ}是^{あざ}改^{あざ}よ^{あざ}曆^{あざ}作^{あざ}音^{あざ}音^{あざ}に
相^{あざ}傳^{あざ}る^{あざ}と^{あざ}事^{あざ}違^{あざ}訓^{あざ}あ^{あざ}ら^{あざ}く^{あざ}盛^{あざ}ら^{あざ}利^{あざ}凡^{あざ}来^{あざ}由^{あざ}の^{あざ}音^{あざ}
越^{あざ}多^{あざ}し^{あざ}と^{あざ}く^{あざ}と^{あざ}母^{あざ}牧^{あざ}承^{あざ}も^{あざ}ら^{あざ}に^{あざ}い^{あざ}と^{あざ}母^{あざ}あ^{あざ}り^{あざ}候^{あざ}
是^{あざ}候^{あざ}候^{あざ}と^{あざ}ら^{あざ}り^{あざ}の^{あざ}事^{あざ}に^{あざ}

七不思儀の事

諏方正一位大明神

七石四石七島

御作田

湖水御渡

元日蛙狩

五穀筒粥

高野鹿耳割

時をく極も秋の道田あはれ也
この中をともして八木極の楕

たぐひなき水の橋渡り代か多く
神を渡れる伝言のり流

萬代や川を渡川平すむうわと
先初妻のゆき中し我々す終

まうれ無き川筒粥のうらみ
そは神のうらみと

あまのうらみ神の道と耳うらみ
麻くそくうらみ終るうらみ

寶殿點瀉

思目よりものこの常やくらくこ乃
てのそな名舟のよあかひるるる

葛井落葉

らんくもあれ葛井の流の底深く
あふくも流るる林の影るる

右奉納

和歌工齋拜上

右奉納後々車平湖清洲なる葛井落葉
いづれもあふくも流るる林の影るる

七石

水石

護摩堂ノ下

御座石

神前

硯石

神前薬師堂ノ下

小袋石

高道磯並

蛙石

鎮塔ノ内

亀石

茅野

三國傳來御傳記

上



湖玉石

右七石外

黑石 守天山道

硯石 墨石上

御掛石 蓮池院内

矢立石 前宮神原有

永七年戊
夏日
向
...

入んぬ... 世に... 年久し... ひる... つら... 世... け... た... ち... め... あ... の... 天... ち... の... と... 山... 中... 勝... 蹟... 誌

安房國諸山茶師如來略縁記 五百餘條

夫安房と上徳の堺... 茶師如來... 三... 元... 羅漢應現記

安房國鋸山樂師如來略縁起

山中勝蹟誌

山中遊覽誌

安房國諸山茶師如來略録

撰者 藤野野矢

安房國諸山茶師如來略録記并 五百餘條 藤野野矢記

夫安房と上総の堺ありし 諸山にありては 寺に之類の上
茶師如來ハ和朝三茶師の位に 一は 聖武帝の御宇 神皇
三礼の灵像あり 往古人皇四十八代 聖武帝の御宇 神皇
元 甲子 辛丑 草創の灵場なり 由來と云ふに 光の石宮
亦宿於成就一 乃以 東諸に 一宇の伽藍と建立し 茶師
如來成安 一 寺ありしと云ふに 乃以 茶師 聖武
帝の御宇と云ふ 東南にあり 東より 下向あり 安房上総ハ
東方に當れり 寺ありしと云ふに 乃以 山遊覧記の如し 乃
諸山の景なるや 山遊覧記の如し 乃以 山遊覧記の如し 乃
乃以 山遊覧記の如し 乃以 山遊覧記の如し 乃以 山遊覧記の如し

存三存に分れ三為来途の形とありて一は天壽寺
せりつらぬる成海隣山と号し一は是成寺の二樹と
いひ東の存成日輪山と号し一は成獅子の本と号し一は海原
自然の獅子の形ありて西の存成日輪山と号し一は成
漢摩堂の樹と号し一は成岩と号し一は成海原ありて是則
弘法大師百日護摩の穴窟なり今於油煙焚き成りて
せりて是も茶師如来の教なり一日に成りて
寺成日輪山と号し一は弘法大師の像ありて大天の
大福山と号し一は成菩薩の像ありて是神意元
存より日二年乙未月八日乙未造宮ありて十二院及び
百坊成院一則先の后宮ありて戸帳ありて後院十二聖

成事より黄令六十を賜給ありて隆よ上げ給へり一は今程
黄令六十を賜給ありて隆よ上げ給へり一は今程
隆よ上げ給へり一は今程隆よ上げ給へり一は今程
日光月光十二神將二重の像ありて西院ありて剛
一は成山と号し一は成山と号し一は成山と号し
本像の大小天城山と号し一は成山と号し一は成山と号し
の寺ありて七所ありて是時ありて是時ありて是時ありて
一は成山と号し一は成山と号し一は成山と号し
成事ありて是後ありて是後ありて是後ありて是後ありて
よ成りて是後ありて是後ありて是後ありて是後ありて
一は成山と号し一は成山と号し一は成山と号し
一は成山と号し一は成山と号し一は成山と号し
一は成山と号し一は成山と号し一は成山と号し

迦比山より有り住持の儀や摩訶明王等秘法を
けしきりてありて千軍に爲るに面白く居られたる所の
ありては六百餘年とありては六百餘年とありては
東方の法を自らと福祐れ地と有りては六百餘年とありては
夫六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
唯獨り一人ありては六百餘年とありては六百餘年とありては
響き声は遠くありては六百餘年とありては六百餘年とありては
故に耶城の羅林のありては六百餘年とありては六百餘年とありては
又百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
入滅せんとては六百餘年とありては六百餘年とありては
故に佛のちせの曉に入滅せんとては六百餘年とありては六百餘年とありては

人らに往來し急難と救ひ福徳を授け一切衆生に利益
を施しし六百の考者も先成りて小児の父母よりの
めくみ新や地は授けの儀を有り令りては六百餘年とありては
へ滅れ後神通命とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
亦此典のありては六百餘年とありては六百餘年とありては
や徳善せしめし形跡も有りては六百餘年とありては六百餘年とありては
希世のありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
仏法に滅却ししありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
とりては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
其の人た衆生を授けしありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては
瑞杖ありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては六百餘年とありては

居士十二名漢や供養せしむるに家多かりし頃遠き
 の如く然り別は世の秘傳と彰するに名漢を悉く三つ六
 年一に外法に記すに名漢此其鑿然なり一故奉て之に
 いふ事ありしと承朝猶亦重承事完小なるえ福師室此
 三年十二月朔日午の時名漢は供養せしむるに六十六
 名漢眷屬成川連を亦外に松よ以てのよ今終名漢
 松よ右跡あり是よりし中ふ名漢の勢なりといふも
 丹波や拙し八百名漢の勢なりといふなり十方の名漢も子名
 めんも其力成合し承朝成事就せしめり今敬しりへと
 安永九年庚子年六月八日
 安房志保山大崎山日名禰守印持傳う撰是と記す

- 第一景 黄金石
- 第二景 三峯門
- 第三景 閑伽井
- 第四景 達磨石
- 第五景 吞海樓
- 第六景 護摩壇
- 第七景 仙掌巖
- 第八景 薜蘿洞
- 第九景 通天閣
- 第十景 無漏窟

聖帝寄附金積船到海岸
 日月瑠璃峯石門一觀堆
 良辨午穿泉藥水洗目明
 廣庭松下祖四方面壁相
 北岸二重樓南海一口吞
 弘法護摩窟十歲香烟惹
 不死不老相仙人撐天勢
 薜蘿掛如錦洞中似龍蟠
 巖陝如過閑仰面似登天
 無上法王與十方諸佛量

第十一景 鷺翼山
 第十二景 石橋
 第十三景 白布泉
 第十四景 坐禪石
 第十五景 獅子巖
 第十六景 日輪山
 第十七景 月輪山
 第十八景 瑠璃山

諸鳥來嶮峻避去似怖鷺
 在天台山上五百尊者梯
 從三峯灑水無水聲如布
 仰觀大祖德登坐小天下
 狂猿野干等到此恐伏去
 朝朝初照赫日光菩薩陽
 夜夜半圓懸月光菩薩陰
 中峰瑠璃臺樹甘露法雨

文化五年壬午春三月ヨリ六十日間於淺草藏前
 八幡社地兩帳四月十八日購得之

檉州四天王寺奧院

南岳山舍利尊勝寺畧縁起

棋州四天王寺奥院

南岳山舍利尊勝寺略由未

折南岳山舍利尊勝寺の由来と云ふは往古仁皇三十二代敏達天皇
 の御宇撰津國東成郡十五村といふ生野長者と云ふ者あり。一子
 有るが過去の因縁を誦するに及ばぬ父母歎は悲むと云ふ有りしに
 是に聖徳太子幼くおひりり生野が家に来除ましく。是を見よ
 予生野の南岳山おわく汝は此に在る佛舍利今予も返して
 有れば見容貌然とて三顆の舍利を吐出吾言爽又文智虎
 小と云ふ。父母の身臭の只とほ三洋九瀬とて悦ぶ太子も舍利を
 長者の所より一のへ踊躍歡喜の余り此は伽藍を建てる。一。
 舍利塔を經營有る南岳山舍利尊勝寺と号し。太子一獻し。佛塔

よこのこと十五村と舍利寺村といふ。太子傳は曰仁皇三十二代欽明天
 皇三十二年辛卯正月御后間人穴太郎の皇女の妾も金色の衣を
 着る僧の容貌艶とて吾救世の形有とて。后の腹に宿ると
 有ると云ふ。敏達天皇三十二代敏達天皇元年壬辰正月朔日御誕生
 也。四月の後能言能物語と云ふ。御又世二代用明天皇と云ふ。
 太子二十歳の五時二月十日音於東に向ひ南無佛と唱へ再降と云ふ。十六歳の
 五時守屋の大連佛法を好む。合戦なるに及ばぬ太子が軍一けを
 近臣秦の川橋を命じて。櫻の本を用いて。太子の像を彫刻するに先
 押立は内宿禰村の城押立守を遣はして。太子の像を彫刻するに先
 つまふ。太子の像を彫刻するに先。太子の像を彫刻するに先。太子の像を彫刻するに先。
 建てる。三顆の舍利一當寺。佛一。二顆の四天王の像と云ふ。

加蓋（かがい）のつりあり。故小當寺とて天王寺奥院といや也。そのうちを
 兵火のお小法堂の灰塵と成ぬきとる思儀や佛舍利を彰
 へ應花と涉（せり）せり。あまより草芽の一字と建宗せり。久
 一。日往月来。寛文年中難有も
 嚴有院君の御代中興岡山唐僧本菴禪師古跡を
 賜ひ。諸堂建立不及。再千果の梵刹とありぬ。
 ○誠小聖徳太子佛法最初のい糸より。音樂猿樂等術
 易學と教へり。堂塔加蓋建地刻の仕松大工と対諸乃。
 職人商人あり。あは毒講の事と教へ世界産業の事と
 あり。祖師とる。ごめや。信んの方。あり。こと。び。あ。よ
 あり。あ。進め。ふ。二世安よの祈念怠慢あり。と教自云

文化十四年丁丑春三月三ヨリ五月十一日ヲテ深川
 八幡社地開帳五月五日糸詣購求之了

正一位八郎大明神起本畧

神主

菊池壹成母

八節大明神略起本
豆及公孫鳥
文名十...

八節大明神略起本

恭

當社大明神の起本と著し奉るに奉也
人五十六代清和天皇代餘裔六條判官
為義朝臣弟八の御子なりて人五十七代
堀河院代御宇保延元年庚申洛陽に

生小給ふ代、弓矢射代名家として父兄
皆其業を傳へて名四海、溢れ給ふ
中に、河曹司竹馬の始より武備群に
勝れ、弓矢ハ亦河祖又ハ幡を中へ超
越し、その故に自勇、丹慢して更に
父兄乃言と、いれ、あ、さる、御父爲義
胡臣其無骨、以林宗の鎮う、あ大に、さる
給ひ、河曹子十一歳、此河時筑世系に
退下、給ふ、八節、及、藝、あ、に、下、了、菊池の
館に、産、渠、を、以、て、他、一、の、臣、と、して、十六、乃
河年、より、十八、歳、あ、て、此、向、九、玉、攻、討、ま、ふ、に
武、威、尖、少、て、向、つ、方、敗、給、ハ、次、と、云、る、に
終、二、年、に、い、る、あ、九、国、を、建、侍、ひ、靡、る、風、に
堰、が、こ、と、い、る、愛、少、て、自、法、西、八、節、を、知、と

稱し給ひ豊後国速見郡野田と云
所に城と築て居を築めふ然に公府
又兄の意より遠く給ふるを謝悔給ひ
保元二年此夏上洛南に河内を以て
父乃其勲氣と宥めめりける哉清めふ
為義朝臣此不與素其ふ用と爲め
給ふのとなるといれは更に一旦乃事也

又况微若かりて遠境に至り一身を
以て懸而執治まふの功今又兄の君
林示と爲て先師を改めめり丹心と
感して對面勉め移さるれば公府
初く又兄此意除むことを感し
啼泣敷刻なるかと云々此年
上皇少法皇と御位競の事ありて

既^まに^こ一^ひ歩^む指^さ降^りめ乃^もふ^ふ内^{うち}に^に大^お兄^{にい}大^お馬^ま頭^{あたま}
茂^{しげ}新^{しん}胡^こ臣^{しん}は^は内^{うち}番^{ばん}衣^いに^に免^まれ^り尊^{そん}守^{しゅ}又^{また}名^な列^り
朝^あ臣^{しん}及^{および}庶^{しよ}兄^{けい}相^あ共^い一^{ひと}八^{はち}帝^{てい}后^ご法^{はふ}白^{はく}王^{わう}
免^まれ^りあ^あし^し又^{また}子^こ兄^{けい}弟^{てい}相^あ別^{べつ}て^て弓^{きう}城^{じやう}控^{くわう}
矢^や城^{じやう}放^{はう}ち^ちあ^あふ^ふ法^{はふ}白^{はく}王^{わう}天^{てん}運^{うん}に^に叶^あは^はせ
給^{たま}は^はら^らめ^めや^や步^ふ陣^{じん}殿^{てん}れ^れて^て々^々れ^れは^は義^ぎ
胡^こ臣^{しん}勅^{ちく}勅^{ちく}勅^{ちく}道^{のう}れ^れ給^{たま}ふ^ふ小^{せう}所^{じよ}あ^あく^くして
終^{つひ}に^に白^{はく}刃^{じん}の^の下^{した}に^に失^うれ^れ給^{たま}ふ^ふ一^{ひと}か^かハ
大^お兄^{にい}大^お馬^ま頭^{あたま}受^う代^{だい}外^{がい}庶^{しよ}兄^{けい}幼^{よう}弟^{てい}あ^あく^く
失^うれ^れを^をあ^あし^しめ^め八^{はち}帝^{てい}后^ご獨^{ひとり}其^{その}武^ぶ功^{こう}強^{かう}
勢^{せい}の^の勝^{かち}れ^れあ^あし^し一^{ひと}事^{こと}城^{じやう} 叡^{えい}感^{かん}の^の案^{あん}に^に
去^きを^を流^{りゅう}め^め 勅^{ちく}免^{めん}あ^あり^りて^て伊^い豆^ず此^{こゝ}離^り鴻^{こう}小^{せう}
放^{はう}れ^れの^の一^{ひと}時^{とき}子^こ八^{はち}帝^{てい}后^ご子^こ陸^{りく}逐^{じゆく}一^{ひと}な^なら^ら
可^たの^の臣^{しん}あ^あ十^{じゆ}條^{じやう} 駿^{せん}菊^{きく}池^ちの^の民^{みん}族^{しゆ}亦^{また}を^を中^{ちゆう}此^{こゝ}

一人也其苟其後胤として五百年來
今や官仕を八帝愛犬島に任給し
利島新島神津岐亦四也吏たり
三宅真に後子あり愛少して四方を
依め終ふ子海の西巽にありあり
遊島の尺えけらと悦をぬる本と
穿て舟となし自さるゆして一に來りて
彼離島に至り給ふ是則今此交り
島也八帝愛武勇佐中異りをれハ
世人猿臂將軍也稱一将り也也
頃乃胡勳搖して靈運ぬるぬ
人王八代高倉君院養安三矣神号を
給ひくをり以來夏冬の祭祀今なり
至りて崇敬年を経るる既に五百年

有^よ余^よ家^か也^や、粵^{えつ}に^に壽^{しゅ}永^{えい}三^{さん}王^{わう} 寅^{いん}謙^{けん}金^{きん}此^こ
源^{げん}大^{だい}納^{なつ}言^{げん}頼^{らい}朝^{てい}郷^{きやう}平^{へい}家^け追^{つい}討^{とう}此^こ源^{げん}
祈^き願^{げん}と^として新^{しん}一^{いつ}金^{きん}銅^{どう}の
神^{かみ}鏡^{きやう}と^と録^{ろく}の^の神^{かみ}像^{ざう}と^と写^{しゃ}し^し給^{たま}ひ^ひ又^{また}
勅^{ちやく}宣^{せん}武^ぶ家^けて^て別^{べつ}子^し金^{きん}銅^{どう}の^の額^{がく}一^{いつ}
八^{はち}節^{せつ}大^{だい}明^{めい}神^{しん}の^の文^{ぶん}字^じと^と録^{ろく}の^の一^{いつ}先^{せん}則^{そく}
八^{はち}丈^{ぢやう}の^の小^{せう}鴻^{かう}子^し鎮^{ちん}坐^ざ成^{せい}一^{いつ}奉^{ほう}り^り多^たし^し及^{及び}也^や

甲^{かう}冑^{くわう}弓^{きゆう}矢^{しや}葉^{えつ}と^と奉^{ほう}納^{なつ}し^し給^{たま}ひ^ひて^て神^{かみ}寫^{しや}
系^{けい}一^{いつ}の^のふ^ふ是^{ぜい}と^とり^りして^{して}謙^{けん}大^{だい}念^{ねん}代^{だい}の^の
柳^{りゆう}宮^{みやう}是^{ぜい}と^と偈^が作^{さく}し^しの^のふ^ふ况^{きやう}國^{こく}主^{しゆ}也^や
崇^{そう}敬^{きやう}と^と也^や又^{また}其^{その}又^{また}長^{ちやう}七^{しち}壬^{にん}寅^{いん}
神^{かみ}大^{だい}君^{きん}八^{はち}丈^{ぢやう}の^の所^{しよ}奉^{ほう}行^{かう}奥^{おく}山^{さん}縫^{ぬい}愛^{あい}助^{すけ}し^し
余^{あま}と^と下^{した}し^し禱^{たう}す^すし^し仰^{かう}て^て再^{さい}金^{きん}銅^{どう}の^の神^{かみ}鏡^{きやう}と^と
造^{ぞう}し^しの^の神^{かみ}像^{ざう}と^とし^しつ^つし^しね^ねし^し甲^{かう}冑^{くわう}と^と

沙^さ納^{のう}有^ありたり^り猶^{なほ}更^{さら}

神^{かみ}威^い日^ひく^くに^に著^{つら}り^り終^{はつ}り^りに^に寛^{かん}永^{えい}九^く

春^{はる}三^{さん}月^{げつ}海^{うみ}上^{かみ}一^{いつ}樽^{ぼん}乃^のと^とき^き此^こ物^{もの}漂^{ひら}泊^{はく}

一^{いつ}海^{うみ}八^{はち}丈^{ぢやう}に^に流^{なが}れ^れたり^り真^ま人^{にん}是^{こゝ}と^と争^{あら}ひ

取^とて^て扱^あた^た見^みら^らに^に幣^{へい}帛^{おく}及^{およ}び^び罽^き物^{もの}あり

葉^は示^しの^の人^{ひと}各^{おの}分^{ぶん}散^{さん}り^りて^て家^{いえ}に^に取^とり^り入^い其^{その}

翌^{あした}日^ひ々^々り^り抱^{かか}瘡^{そう}と^と患^{あは}れ^れり^り人^{ひと}凡^{およ}そ^そ十^{じゅう}奈^な人^{にん}

村^{むら}俗^{ぞく}大^{おほ}母^{はは}忌^い忌^いれ^れて^て病^{びやう}人^{にん}と^と小^こ石^{いし}根^ねり

浦^{うら}と^と以^も所^{ところ}に^に移^{うつ}り

當^{あた}社^{しゃ}乃^の神^{かみ}木^きを^を振^あり^りて^て病^{びやう}患^{あは}れ^れ減^く除^{ぞく}る^る

精^{せい}誠^{じやう}と^と懃^{しん}り^りを^を八^{はち}日^{にち}何^{なに}と^とし^して^て患^{あは}れ^れ

平^{へい}愈^ゆは^は是^{こゝ}を^を以^も来^{らい}八^{はち}丈^{ぢやう}一^{いつ}抱^{かか}瘡^{そう}と

患^{あは}れ^れる^る奈^なも^も誠^{まこと}小^こ

當^{あた}社^{しゃ}乃^の感^{かん}應^{おう}に^にあ^あり^りて^て况^{いは}ん^ん其^{その}地^ち乃^の

天變とや等閑し退散の奇瑞
言句に怨あつて八節叙別鳥存考
時自法像代写し置せ給ふ畫像
何り是亦靈驗更し嚴重かり
護持つら羽く矢と
神子歎して精誠と出らむ時は必
感存し安法かきとこの事

怨天謹む願し

豆火大嶋為朝明神之神主

虎之助子

時正徳元卯十月 菊池奎元藤原專武

敬誌

逐加

柳やなぎ尚社正一位八郎大明神ハ五百
餘よほ歳ハ丈は高たか一鎮ちん坐ざ在ま在ま少すくソとと也
海上うみ遙とほに瀾なみ子こをり武陽ぶやう一守しゅ存ぞんる
こと成なかたれ可かり去いル正徳しやうとく年中
疱瘡うそう除のけの美
御おん尋み向むかうはるらにをり祖そ父ふ虎こ之助
初はつめめ武洛ぶらく一守しゅ奉ほう了りょう別

御おん城しろ十じゆ入いりせしれ此この帝てい祖そ父ふ不ふ幸きやうに
して相あひ果たま神しん躰たいハ
御おん城しろ一留とどま勢せられ此この聖せい年ねん又また奎き之の元
召めあせしれ寺てら社しゃ御おん奉ほう行ぎやう所ところみわめめ
神しん躰たい涉せつ後ご一被ひ遊ゆう
河か紋もん付つの涉せつ戸と帳ちやう并なら涉せつ身み裁さい拜らい領りやう
い多おほし其その砌み奉ほう願げん初はつて浅草あさくさ自じ性じやう院いん

おありて開帳しきつと開帳は後正位の
神位と備へ益神威性古に倍し
諸人乃倡仰佗に異とあり慈丹誠
信心の輩願ふところ成就せ候と
謂るのみく災をり二十條と絶今を
奉願蒙

御免開帳しきつと開帳は後正位の
神位と備へ益神威性古に倍し
諸人乃倡仰佗に異とあり慈丹誠
信心の輩願ふところ成就せ候と
謂るのみく災をり二十條と絶今を
奉願蒙

御守法身拭頂戴の輩精誠と
いふ時ハ靈驗著しき事候に
計(か)

神主

省宝曆二年三月 菊池壹岐守

藤原武幾

敬白

略錄起并

古跡由来

美濃國不破郡音基宿

双響山

圓願寺

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

物りと之とも悲月夜玉のせし苗を兵火のあふ一時は
堪へし一か堂の跡に今も日影を遺してまの跡を遺せり
まの跡に遺せり
何この日や夏夜にのぼるぬん今更に秋の傳へ
一とて籠の夜雨を遺して後しをりもつて人の
鹿指をよみ佳景の流るる伝力を如く傳へし傳へ
修造の功成と不運の荒るるをりもつてふ

まの跡を遺し由來

まの跡を遺し由來
まの跡を遺し由來
まの跡を遺し由來

河作

河作
河作
河作

長谷を遺し

長谷を遺し
長谷を遺し
長谷を遺し

長谷を遺し

長谷を遺し
長谷を遺し
長谷を遺し

長言訓

長言訓の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

八幡

八幡の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

池

池の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

孫山

孫山の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

夢子の清水

夢子の清水の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

新井

新井の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

長石

長石の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

長所

長所の地なり 今田所の地なり
なりしなりと云ふ事あり

聖言所

聖言所
相長公御自害の地なり
今この地所の事
なりと云ふれしよしと云ふものなり

聖八幡

相長公御隠る所を約て神といひ
いふなり

信成池

此の池は信成の池なり
海原より出たり

新孫山

此の山は新孫の山なり
長谷の山なり

白澤

文記十二卷六分七の系流
今亦作

勅願所本願院藏板

大和國

長谷寺縁起 一冊

豊山神樂院長谷寺畧縁起

當山縁起の系も寛平八年二月十日依勅菅原天満宮御神筆と深きをも行基菩薩の國府記并本

縁起三卷本於上人上表一通按て抄出りの不也其略云夫南阿浮提陽為輪王所化下磯馭島水徳国泊瀬神河浦は觀音利生の道場あり此御は二の各あり一ふ泊瀬寺又云本名とゆらる泊瀬河上は瀧藏の社と振ありて天人の生一毘沙門天王いよる其御手の宝塔流る世山のありと神河の瀬ふをまをしと武内

宿禰即ち宗北の家西北のすくに納むらにたりて曰号三神をとりてめ泊瀬とんまより三百余年を経て道明上人これを石室より一里の名ふらる泊瀬寺とゆふ又天武天白王更ふ道明上人ふ勅しを石室の佛像并に三重の塔と西の畧ふまをす一の本長谷寺堂是也二より長谷寺大悲利生の谷ちりきりたりては名を得たり是西谷は法起菩薩の應化徳道上人聖武帝の勅と系て觀音西畑とすまをる天平七年乙亥五月十六日上棟同十九年丁亥九月廿八日供養せらる勅

使へ中納言奈豆麻呂導師へ天竺の僧菩提呪願師ハ
大僧正行基僧百人此時種々の靈瑞奇特あり
一まの本縁記より一くありて爰は略しぬ
梓十一面觀世音菩薩の尊像ハ徳道上人ハ地の
靈瑞は感しとて大士の尊像を生じ安置せんと御衣
木を求めし所ハ大師道明大徳のお見えおて神河
浦に到るのみならず靈木あり上人老翁は對面
ては木の由来を尋ぬるは老翁近江国三尾
明神あり語て
曰傳軍く近江國三尾崎山の白蓮華谷は大

さがる臥木ありなごたひ十余丈の楠木ありは木
とると常は瑞光を放ち異香を薫じ継體天皇即位
十一年の洪水はちがれ出て志賀の郡大津の里はある
り七十年さとの人靈木あると云ふに伐るをばに
種々の祟りありて恐きて犯す者あり大和國高
市郡八木の里は小井門子とりひ女ありおのふゆへ
ありて仏像を造りちんと八木の街は引をせし木
のそとてあたりて死せりは里は三十余年を經る
同國葛下郡は出雲巨太沙汰法華と云あり

十一面の像を造りたりなりんと同郡當麻の里より引させ
たりとも大ありも死せりけりは五十余年を經る
天智天皇即位七年城上郡長谷の里神河浦より
引捨る又三十九年を經る彼木をまうり何れも木毎
に火災疾疫あつたといふをかしとれり徳道上人
老人の物語りてを述べていよく靈奇のあるべきなり哉
知りてりの木と里人は乞うをうりりとも佛を造
りかん糧なくして十五年を經る或夜夢あり木の
峯に三の燈あり 今三燈の 三世利益を表するあり
峯とよ

りの峯ふして造佛をへるとさめて後おしえの如く養
老四年庚申二月は靈木を木の根より引のせ庵を
造りて聖物安穩藤氏繁昌乃至法界平等利益
の爲に十一面の像を造りたりとん大悲の弘誓我
願を感得ひてこの木おのづから佛とかりぬと丹
誠をそし風夜の勤めおこしん同八年七月房前
に事のつらうなりては峯に日を入り此庵はへ来て
怪し同て日汝君臣といのり何事ぞや聖人云天照
大神春日明神二神の神孫はを治む佛法の

真瘻まろうはけ君臣きんしんはあり又君臣の運否うんひは仏法ぶつぽうよすべし
と造仏ぞうぶつの意教いけうと具つふぶひひりり中ちゆう臣しん世せを朝庭てうていと
養やしやう長ちやう終しゆう不ふ決けつ龜き元げん年ねん三月さんげつ宣せん下げありて香稻かうたう三
千束さんせんを營作えいさくの科かは給たまひひ一いつももいいままごごああははるるをを均
ざりざり一いつはは同どう六年ろくにん四月しがつ八はち日にちかかささめて大和河内兩國
敷しき々々の正稅せいぜいを給たまひひ一いつずず御衣ごい本ほんの加持かぢあり
其役そのやくは道慈律師だうじりつしんあり同日どうじつ始めて時ときをううききんん三さん日
の月げつに十じゅう面めん觀くわん自じ坐ざ菩薩ぼさつの像ざうありのみ長ちやう二丈にじやう
六尺ろくしち巧くわう通つうへへ積せき普ぷ文ぶん會え稽けい主しゆ勲くんあり天平五年ていへいごねん癸酉みづのえ

八月十八日開眼供養あり僧百口導師だうしハ行基ぎやうき菩薩ぼさつ
菩薩ぼさつ咒願じゆげん師しハ義暹ぎせん大德だいてく也又靈像れいざうの石坐いしざハはと死
後ごの石いし異い所しよありて山さんくくはは遠えん岩がん碑ひけけて金剛寶こんがうほう
磐石ばんしやく土つちととううぎぎて現あらまま出いで維い摸も正せい等とうふふ一いつ方ほう八尺はちしち也
其その百掌ひゃくたうののどどくく足跡あしあとのの穴あなあり像ざうの御足ごあしふふええりあり
セセ一いつググめめ一いつ拵しゆとと十じゅう面めんの像ざうをを夫そへへなりなりあり
石いしの左ひだり銀ぎん子し就しゆ穴あなあり無む雜ねつち池いけも通とほじじとと其その石いし
の室むろ石いしをを繫ひ一いつ枝えだハハ補陀ぶた洛山らくせん大だい悲ひの坐石ざいしやく也也は室むろ一
石いしの左ひだり銀ぎん子し就しゆ穴あなあり無む雜ねつち池いけも通とほじじとと其その石いし

瑞應の靈迹に略しぬ

長谷寺縁起一卷

菅神御作

長谷寺假名縁起三卷

東山慈照院殿

詞書

大納言正二位雅俊筆

繪

土佐將監光信筆

古歌四首

大智院殿贈大政大臣從一位義親公筆

右本願院重宝也

東山弟

享和元年辛酉二月

沙門

源無謹誌

千利休宗易之像



傳世

一千利体ハ牛園泉利堀の人々ニ名田申氏
 たり先祖ハ足利アスカの公方家ニ付ツクて同坊ドウボクたり
 千両弥と号と故コト末裔マツチノ千の字と氏と云
 利体俗者千両富トクニと云々堀と魚イサ同金
 と云々富貴之其ハ刀服ハキサレの月利ツキと仕立
 若狭ヨシノ者老ヨシの服格と金子七拾六枚と雲元
 五入と云々と又歩フミ行ユキ九寸八クニヤチと云々
 此たと月利ツキ構カマも云々トの河カハと云々
 と云ハ是ら云々ト存ゾクら風茶フウチャと湯ユのリキ度タク

と思ハ云紹徳ショトクの字子と云々ト牛得ウシトク意月イツキ
 少オホ少オホ少オホの心ココロハ叶カナラハ小オホ水オホ龍オホと云々
 水龍オホと云々ト此コトと云々ト九オホ服オホと云々
 此コトと云々ト但オホ作オホたオホと云々ト水龍オホの
 一オホと云々ト其オホ心オホと云々ト利体オホハ富オホ田オホの意オホ
 利体オホと云々ト申オホと云々ト角オホ物オホの字オホ入オホ利体
 今オホと云々ト思オホハ右オホの若オホ狭オホの服格オホと云々
 今オホと云々ト七オホ拾オホ六オホ枚オホと云々ト九オホと云々ト今オホ

多分よかんよたふ元^ツ中^持と元くあげ
故南^持よりあげ中^持と名^持の^持茶^持を湯と名
しよ天然と名^持多く秀^持香^持公^持開^持白^持及^持多^持白^持か
三千石の領地と名^持しよ一^持てより^持決^持定^持く^持よ^持石
多^持分^持達^持しよ一^持天下^持の^持徳^持大^持名^持門^持才^持と^持あり^持あり
貴^持多^持く^持和^持尚^持と^持多^持作^持し^持中^持人^持よ^持茶^持の^持宗^持也^持と
し^持の^持在^持り^持し^持く^持和^持尚^持移^持え^持け^持海^持より^持し^持り^持ま^持り^持あり
利^持休^持の^持別^持名^持と^持拖^持谷^持社^持と^持云^持宅^持地^持八^持上^持京^持が
は^持ち^持の^持宗^持よ^持し^持て^持豊^持彦^持秀^持吉^持と^持け^持地^持と^持名^持あり

利^持休^持の^持中^持分^持の^持領^持の^持方^持し^持よ^持あり^持未^持齋^持
今^持程^持下^持よ^持領^持地^持し^持り^持あり^持し^持て^持茶^持を^持湯^持れ
せ^持り^持ま^持し^持て^持人^持の^持元^持と^持名^持と^持ハ^持利^持休^持と^持り^持け^持方^持令^持
あり^持し^持て^持中^持古^持開^持山^持あり^持後^持下^持より^持し^持り^持し^持て^持茶^持を^持湯^持れ
裏^持が^持清^持い^持し^持て^持あ^持め^持あり^持て^持逐^持電^持し^持自^持滅^持と^持し^持り^持
天文正九年二月廿一日よ^持死^持と^持死^持後^持字^持易^持と^持云^持
二條院の陵^持船^持塚^持山^持北^持林^持祭^持め^持と^持陵^持の上^持よ^持又
ま^持の^持石^持塔^持あり^持し^持て^持九^持輪^持と^持名^持く^持自^持
己^持れ^持塔^持と^持大^持江^持と^持北^持河^持聚^持光^持院^持と^持あり^持其

西照と名かし利休が幽居と御まうすお通を推しぬやのさうさ
ぬらんとしぬがちとてし中とより平結りな名所とあり
左に柳外千ありこし心息をらぬゆゑ幽居及よりぬきぬし退
きあうすね能勝はあり秀乃公の屋と心息をらぬ常所御所
のりく心かぬぬりくぬぬ房建の心息をらぬ物秀乃公の心息
切舟御守十のりぬぬらぬとて利休が幽居御所やありぬす
左に柳外千ありこし心息をらぬゆゑ幽居及よりぬきぬし退
きあうすね能勝はあり秀乃公の屋と心息をらぬ常所御所
のりく心かぬぬりくぬぬ房建の心息をらぬ物秀乃公の心息

柳津

柳津 奥州 霊巖山
虚空藏 会津 圓藏寺

柳津 奥州 霊巖山
虚空藏 会津 圓藏寺
柳津 奥州 霊巖山
虚空藏 会津 圓藏寺
柳津 奥州 霊巖山
虚空藏 会津 圓藏寺

厚交奥州會津の縣柳津々全五十一代平城天皇乃
御宇大同二年弘法大師の開闢くわいびやくし一徳一大師の建之
たのむ日本二十之う所建之し後内當山其一也後其
維石巖きせきがんくうし一碧樹斜きせきふ遠り前冬せんとう原泉げんせん源げんに
く流りゅうあることほ識り日本希有の靈場なり
本その虚空義菩薩ぎふさつ來由らいゆうとくづの身軀みんくふ植之
天皇延曆廿三年弘法大師入唐のついで本朝佛法流布
のついで大唐より之結むすと愛樹あいじゆれ本を日本之地へあ投なげを
則すなはち之結むす紀州南山きしゅうなんざんれ松まつよかりく今いま高野山たかのやま小菴しょうあんなり
樹じゆ、熊野の浦うらより一いつし關東房せう抄せう乃天師てんし小菴しょうあん乃大師

|| 龍木りゆうぎあまののりうのりうあまの別べつ樹じゆと元もと代しろくく云いふ
旅りゆうしむいい本ほんとつてる谷やと所ところ乃なり阿房あへう清澄せいじやうれ虚空
義ぎ是こゝ中ちゆう本ほんとつてる谷やと所ところ乃なり常陸村松じやうりくむらまつの虚空義
是こゝや末すえ本ほんとつてる谷やと所ところ乃なり又また再び浦中うらちゆうへ投なげむいいくくふ
教きやう子しとつてる當州たうしゆうの揚やう河がは流りゆうとあり之これ株かの柳りゆうくをわたり
毎まい月の七日ななひなり故ゆゑよそと七日ななひをと云い而しかつつ變へん二人ふたり何なにも
をりりありいむとわらげと大師だいし小菴しょうあんげも教きやう大師だいしえあり
加持かぢありしめ給たまふありとる谷やと所ところ乃なり刻きやくんとするわりのとつ
とも彼か不ふ達たつ之これの地ちよりくもとて近ちかく多おほし今いま傳でんのた柳りゆうは
しまた其その本ほんのそ花はな大師だいしのトと若わかくけいけい尚なほ柳りゆうのありけりし

由縁と云く柳は蓮の如く蓮石の愛樹と云く空と云り
 もく空なりその空と云く今け虚空藏の如く清澄に徳有る空
 花村松の天満君を云く柳原の福徳君を云く日本之虚空藏
 と云く此之幹の事なり故大師柳げ白くまろる二入の物人々
 乃於花柳原舟生乃柳や修くおれと云く寺の徳守と云く
 乃乃乃く徳大師は山ふおろく護摩と云く彼くあはれと云く
 雲と云くびとく天より明星おまぐさり白蛇は踏くく氣向
 わり大師あまを睨れくあまを御形二千八由旬ありて
 蘇くくくく大光明と云く教わたりあまを御くくくくくその
 と云く此の御蹟と云く石よりなり乃明星石と云く又明星池

宝珠石燈籠の宛在魚鬪不茹多の石西田江ありと云くお本
 じりて違わく

一 當寺小賓頭盧者の本像ありと云く亦大師おをを殿あり
 と云く此の本より作りあまを又まを者も永く世は傳せり
 多し座生と云く阿はせんとの此中教ありと云く且福徳尊為一説
 乃乃けあまを教と云くあまをくゆめあは徳人伝と云くあまをく
 けの像と云くあまを密と云く此をその御守と云く一靈路わくく小
 ありゆと云く強く疑と云くん也

一 當寺大蓮君の天亦是弘法大師の御刻と云くいとおくたう殿
 獨神方り於是く本門前小おろく若あり大蓮殿今云

至るに徳流布正をふるふなど由最妙也或は世に細かき
 夫のあはれと現し自のう形像と刻始ふと人こそと
 信仰われ福と傳りて終わり亦勝てぬへく一又以て
 之その今に化とあづむ河舟とて又濁末世の宿生位位
 そるあてて之室と致せと只名聞利欲又終りのと是を
 所為の方便ありとてともつと福徳と致す言提し
 御さしめんと致しめんと大善大徳の世に終る故に曰く終りて
 乃至隨諸名生及脱とて夫をなすに明星也とてく空虚之
 終分見ありて一輪の月が午にの光と照らすとてく一
 心水清浄ありて新世を有る時明く亦現と露とてく人
 任授徳也

